

モードは語る

中野 香織

新型コロナウイルスの影響で、3月中旬の東京コレクションも中止となった。各種式典や社交イベントも激減し、オケージョン需要も大きな影響を受けている。桜の開花とともに新しい服を着て春の訪れを楽しむのが、いかに「有り難き」ことであったか、思い知らされる。

移動制限や入国制限を課す国も増えているが、スーパーモデルのナオミ・キャンベルがこのような時代を極端に象徴する装備でロサンゼルス国際空港に現れ、3月10日、自らインスタグラムにその姿を投稿した。全身を汚染防止用のハズマツスー

新型コロナウイルスの波紋

トイレットペーパーが不足とのデマ情報で商品が店頭から消えた



ツで包み、青いマスク、ピンクのゴム手袋、防御用眼鏡を装着している。ウイルスを意識した旅行ウェアとしては高次すぎるレベルと見える。

彼女を細菌ぎらいで知られる。新型コロナウイルスがまだニュースに

汚染防止スーツ 大げさか

もなっていなかった昨年、飛行機に乗る際の儀式が動画公開されていた。座る前にゴム手袋をつけ、消毒薬がしみこんだシートを用いて座席や前方スクリーン、コントローラー、窓、上部の排気口にいたるまで、触れる可能性がある場所すべてを徹底的に拭きとる。その後、持参の清潔なマットを座席の上に敷き、マスクを着用して細菌から身を防御する。「人にどう思われようと、気にしない」と彼女は語る。

これを見た当初、私は、なんと過度に神経質なことかと笑っていたことをざんげしたい。パンデミック宣

言が出された今、飛行機に乗らざるをえない人は、おそらくナオミと似たようなことをするのはではないか。少なくともコントローラーの消毒くらいはやりそうだ。

あまりにも急速に事態が進行するなか、私はナオミのハズマツスーツを笑えない。数週間後、類似のスーツを着ていないとは言い切れない。少なくとも、ゴム手袋は常識になっているかもしれない。建物の入り口でのアルコール消毒の習慣のように、まさかと思っていたことが「当然」に変わっていく。現実が予測不可能な方向に変わりゆくなかで、「やりすぎ」と「自衛の権利」の境界がぼやけていくのは、トイレットペーパー買い占めにかぎった話ではない。(服飾史家)